

New!

新バージョン5.5リリース!

- 三次元画像、点群、ポリゴン、CADデータをひとつのソフトウェアで**統合的に処理**できます。
- ヒーリング、面貼り、形状比較といった複数の機能を**シームレス**に取り扱うことができます。
- 欠陥検出、肉厚評価、三次元計測といった**新機能**がバージョン5.5でサポートされました。

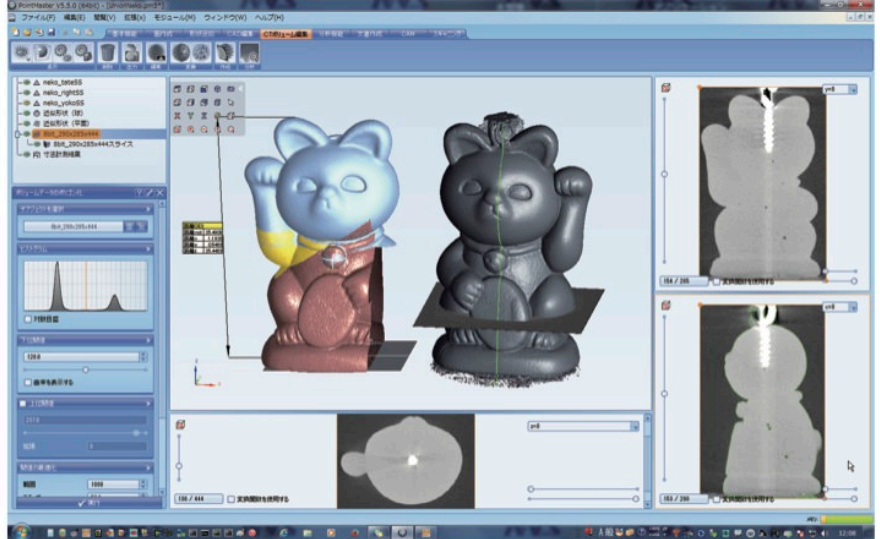
PointMaster 5.5の多彩な機能

CADリンク



簡単な操作で、ポリゴンデータの表面に面(サーフェス)を貼ったり、平面、円筒など単純形状に近似し、結果をIGES、STEPファイルとして受け渡すことによって、3D CADソフトウェアとのデータ連携を実現する機能です。三次元計測で得たデータをCAD、CAM、CAEなど様々なシーンで活用できます。

CTモジュールによるX線CT画像のボリュームレンダリング表示

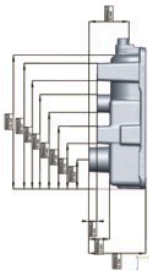


形状比較



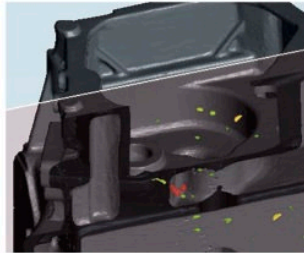
CADデータと計測データ、あるいは計測データ同士など、2つの異なる形状を位置合わせして、比較できます。

三次元計測 *New!*



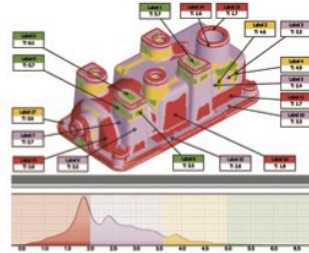
三次元計測データからCADライクな3D計測を実現します。

内部欠陥検出 *New!*



鋳造品や樹脂などの三次元画像から内部欠陥や粒子を自動的に抽出し、カラー表示して可視化します。

肉厚計測 *New!*



指定した厚み寸法の箇所を三次元的に検出し、カラー表示肉厚で形状を評価できます。

3Dプリンタ用のSTLファイルも出力できます。



PointMaster 5.5の動作環境

- ◆ マルチプロセッサ/マルチコアのCPU環境をサポート
- ◆ NVIDIA GeForce, Quadroシリーズなど独立したGPUとビデオメモリを持つOpenGL 2.0対応のグラフィックスカードを推奨
- ◆ Windows XP, Vista, 7の各Editionに対応
- ◆ 32/64bit版どちらかを選択可。価格は同じ
- ◆ データの総容量の数倍のメモリ搭載を推奨
- ◆ メモリ1GBあたり、300万ポリゴンあるいは2,000万点の点群データを読み込み可能

- ◆ 三次元画像の総容量の算出例は以下の通り。
16bit×512×512ピクセル×512枚=256MB
16bit×1024×1024ピクセル×500枚=1GB
- ◆ 目安として、512×512ピクセルの画像は32bitでOK
1024×1024ピクセルの画像は要64bit
- ◆ データ上限は搭載メモリによる。32bitは2GBまで
- ◆ 総容量1GBを超えるデータの取り扱いには、大容量メモリ(例: 8~16GB)を積んだ64bit PCと64bit版のPointMasterが必要です。
- ◆ ソフトウェア教育コースを弊社で毎月、実施しています。

PointMaster 5.5の製品構成

以下モジュールを選択/組み合わせでご購入頂けます。

- ◆ 基本機能 (ポリゴン、点群データ処理、レポート)
- ◆ CADリンク (面をはってCAD化、形状を近似)
- ◆ CTモジュール (CTなど三次元画像の表示と処理)
- ◆ 形状比較 (三次元形状同志を位置合わせして比較)

PointMaster 5.5のライセンス形式

- ◆ USBポートにプロテクトモジュールを取り付けることにより、そのコンピュータでソフトウェアが動きます。



リバースエンジニアリングとは?

近年、X線CTや3Dスキャナで計測した**現物の三次元データ**を用いて、リバースエンジニアリングを行う試みが活発になっています。リバースエンジニアリングとは、広義では機械を分解したり、製品の動作を観察したり、ソフトウェアを解析するなどして、製品の構造を分析し、そこから製造方法や動作原理、設計図、ソースコードなどを調査する事を指します。

この分野では、さらに計測系のデジタルデータをCAD、CAM、CAE、Rapid Prototypingなどの技術と連携させ、設計・製造・検査上で役立てる行為を指す言葉として理解されています。

※仕様、発売時期等は予告無く変更することがあります。 ※会社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。